

題材	家族との団らんを工夫しよう			4月(3時間)
目標	自分ができる仕事を見付けたり、家族の触れ合いや団らんを工夫したりして、自ら考え実践することの楽しさや喜びを実感し、進んで取り組もうとする。			
評価規準	(①知・技)家族の一員として自分の立場や役割が分かり、安全面に留意しながら、お茶を入れたり果物を切ったりして、団らんの準備をすることができる。 (②思・判・表)家族の触れ合いや団らんについて問いを見だし、自分ができる仕事を見付けたり、家族の触れ合いや団らんの仕方を考え、工夫している。 (③主体的態度)家庭生活に関心をもつとともに、自分ができる家庭の仕事を増やし、家族の触れ合いや団らんの場を進んで作ろうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※「記録に残す評価」
見・つ・つめ・か・る・む	1	○生活実態調査を行ったり、家庭の仕事について話し合ったりして、課題をつかむ。 課題：「家庭を楽しくするために自分ができる仕事を増やし、家族との触れ合いや団らんを工夫しよう」	○家庭生活の場面を振り返りながら、自分にできる仕事を考えられるように、衣食住にかかわる写真を提示する。	◇家庭で自分のできる仕事を増やそうとしたり、触れ合いや団らんを工夫しようとしていたりしている。 <学習プリント①②③>
追究する	1	○こんろと包丁を用いて、お茶や果物を準備し、団らんの試しの活動を行う。	○こんろや包丁を正しく安全に使用できるように、使い方を演示する。	◇安全に気を付けてこんろと包丁を使用し、お茶を入れたり果物を切ったりしている。 <活動①>
ま・と・広・め・げ・る	1 家庭	○試しの活動を振り返り、家庭における実践に向けて話し合う。 ○実践計画に沿って、工夫して家族との団らんを行う。	○団らんを楽しくするための具体的な改善策を考えられるように、手軽に準備できる飲み物の作り方や果物の切り方の資料を提示する。	◇団らんを楽しくするための具体的な方法を、自分なりに考え記述している。 <学習プリント①②③>

題材	手作りソーイング工房		5・6月(10時間)
目標	製作に必要な用具の安全な取扱い方や簡単な手縫いの仕方が分かり、布を用いて製作した物を生活に生かそうとする。		
評価規準	(①知・技)製作に必要な用具の種類や安全な取扱い方、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、玉結び、玉どめの仕方が分かり、手作りコースターを製作することができる。 (②思・判・表)手作りコースターの製作について問いを見だし、製作計画や縫い目の幅がそろった縫い方について考えたり、工夫したりしている。 (③主体的態度)布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもつとともに、製作した手作りコースターを家族との食事や団らんで活用しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
見・つめかむ	1	○家族との食事や団らんに役立つ布を用いた物の製作について話し合い、課題をつかむ。 課題：「家族の好みに合う手作りコースターを作ろう」	○家族の好みに合う手作りコースターを作ることへの問題意識をもてるように、前題材の模擬団らの写真やはしの縫い方が異なる複数の手作りコースターを提示する。
	1	○手作りコースターの製作計画を立てる。	○手作りコースターを製作するために必要な手縫いの仕方や製作の手順について考えられるように、手作りコースターを製作する大まかな活動の流れを提示する。
追究する	2	○製作に必要な用具の安全な取扱い方、簡単な手縫いの仕方を練習する。	○針やはさみの安全な取扱い方や、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、玉結び、玉どめの仕方を理解できるように、用具の取扱い方に関わる資料や、それぞれの縫い方、その特徴や違いが分かる映像資料を用意する。
	2	○自分の手作りコースターを製作する。	○縫い方の手順や縫い目の幅を確かめながら製作を進められるように、手作りコースターの見本やコースターの製作段階が分かる分解資料を用意する。
	家庭 3	○家族の好みに合ったデザインを調査する。 ○家族の手作りコースターを製作する。	○縫い目の幅がそろった縫い方を考えられるように、自分のコースターを製作した際の成果と課題を整理できる表を用意する。 ○縫い目の幅がそろった縫い方を身に付けられるように、これまでの活動で明らかにしてきた、手作りコースターをきれいに縫うための観点を提示する。
ま・と広めげる	家庭 1	○製作した手作りコースターを家庭で活用したり、布を用いたコースター以外の物を製作したりする。 ○家庭でコースターを活用した感想や、布を用いたコースター以外の物を製作したことについて話し合う。	○製作した物を活用できたことの喜びを味わったり、布を用いた生活に役立つ物を製作する意欲をさらに高めたりできるように、話し合う際の観点として、「家庭で取り組んだことのよさ」を提示する。
		評価項目<評価方法(観点)>※「記録に残す評価」	
		◇手作りコースターの製作に関心を持ち、製作してみたい縫い方や色、活用場面を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>	
		◇手作りコースターを製作するために必要な手縫いの仕方や製作の手順について考え、計画を記述している。 <学習プリント②>	
		◇針やはさみを安全に取扱い、なみ縫いや返し縫い、かがり縫い、玉結び、玉どめをして、それぞれの縫い方を説明している。 <活動・発言①>	
		◇見本や資料を参考にして、選んだ縫い方で、布の端をそろえて、手作りコースターを製作している。 <活動・作品①>	
		◇縫い目の幅がそろった縫い方を記述したり、その方法を試したりしている。 <学習プリント・活動②>	
		◇手作りコースターをきれいに縫うための観点到に沿って、縫い目の幅がそろった縫い方で手作りコースターを製作している。 <活動・作品①>	
		◇家庭で取り組んだことのよさを基に、手作りコースターを活用したことや、布を用いたコースター以外の物を製作したことの感想を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>	

題材	目指そう！衣服のお手入れ名人			6・7月(7時間)
目標	洗濯やアイロンがけなど、衣服の手入れの方法が分かり、日常生活に生かそうとする。			
評価規準	(①知・技)水や洗剤を無駄にしない洗濯の仕方、アイロンのかけ方が分かり、洗濯に必要な洗剤や水の分量、汚れに合った洗い方、アイロンをかける向きなどに注意して、気持ちよく使ったり着たりするための手入れをすることができる。 (②思・判・表)衣服の手入れについて問いを見出し、衣服に合った手入れの方法を考えたり、家族の一員として家族のためにできる衣服の手入れを工夫したりしている。 (③主体的態度)日常着の手入れに関心をもつとともに、きれいに洗濯したり、アイロンをかけたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※「記録に残す評価」
見・つめかむ	1	○衣服を気持ちよく着るために必要な手入れについて話し、課題をつかむ。 課題：「気持ちよく使ったり着たりするための、手入れの仕方を工夫しよう」	○洗濯やアイロンがけに着目できるように、使ったままのハンカチや汚れのついたランチョンマットなどを用意する。	◇ハンカチや衣服をきれいに使っていくための方法や工夫について、記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>
追究する	1	○ハンカチを洗剤を使わず、手洗りする。	○手洗いに必要な用具や汚れに合った洗い方を理解できるように、もみ洗いやつまみ洗いの演示をする。	◇汚れ方に応じて、洗い方を選んで洗濯している。 <行動①>
	1	○ハンカチを用いて、アイロンがけの実習を行う。	○アイロンをかける向きによる布地の伸びを実感を伴って理解できるように、布を縦、横、斜めに引っ張り、伸びの違いを確かめるための布を用意する。	◇安全に留意し、布目に沿ってアイロンがけをしている。 <行動①>
	1	○洗剤を用いた手洗いの仕方について調べる。	○洗剤を用いた手洗いの手順、洗濯に必要な洗剤や水の分量を理解できるように、資料を用意したり、洗剤の表示を提示したりする。	◇手洗いの手順や、必要な洗剤や水の分量を正しく記述している。 <学習プリント①>
	1	○調べた手洗いの仕方を基に、洗剤の量に着目して靴下の洗濯実習をする。	○水や洗剤を無駄にしない洗濯の仕方について実感を伴って理解できるように、洗剤量を変えて手洗いをし、汚れの落ち具合や使用する水の量を比べられるくつしたを用意する。	◇使用する洗剤量の違う手洗いを比較しながら、水や洗剤を無駄にしない洗濯の仕方について、記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
まとめ広げる	1	○これまでの学習や実習を振り返り、家族の一員として家族のために自分にできる衣服の手入れを考える。	○家庭でできる衣服の手入れを考えられるように、1週間の洗濯やアイロンがけの回数についての調査活動を設定する。	◇洗濯やアイロンがけなど、家庭で実践できることをまとめている。 <学習プリント②>
	家庭	○実践計画に沿って、家庭で衣服の手入れを行う。		
	1	○家庭での実践を報告し合う。	○できるようになった達成感を得て、成長していることを自覚できるように、家族の感想を聞く場を設定する。	◇家族のために自分にできた衣服の手入れについて、記述している。 <学習プリント①②③>

題材	ミシンを使ってエプロンを作ろう			9・10月(11時間)
目標	製作に必要な用具の安全な取扱い方やミシンを用いた直線縫いの仕方が分かり、布を用いて製作した物を生活に生かそうとする。			
評価規準	(①知・技)ミシンの安全な取扱い方、上系や下系の準備の仕方、直線縫いの仕方が分かり、製作に必要な用具を安全に取扱い、自分の体に合った大きさのエプロンをミシン縫いで製作することができる。 (②思・判・表)ミシンを用いたエプロンの製作計画や使いやすいポケットの大きさや位置について考えたり、工夫したりしている。 (③主体的態度)布を用いた生活を豊かにする物の製作に関心をもつとともに、製作したエプロンを家庭や学校で活用しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※「記録に残す評価」
見・つめかむ	1	○家庭や学校で役立つ布を用いた物の製作について話し合い、課題をつかむ。 課題:「自分の体の大きさに合ったエプロンを作ろう」	○自分の体の大きさに合うエプロンを作ることへの問題意識をもてるように、エプロンを使用して調理実習をする写真やサイズの異なる複数のエプロンを提示する。	◇エプロンの製作に関心を持ち、製作してみたい大きさや活用場面を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>
	1	○エプロンの製作計画を立てる。	○エプロンを製作するために必要な準備や製作の手順について考えられるように、エプロンを製作する大まかな活動の流れを提示する。	◇エプロンを製作するために必要な準備や製作の手順について考え、計画を記述している。 <学習プリント②>
追究する	1	○ミシン縫いを練習する。 ・ミシンの準備の仕方を知る。 ・ミシンで直線縫いをする。	○ミシンの安全な取扱い方や上系や下系の準備の仕方、直線縫いの仕方を理解できるように、ミシンの取扱い方に関わる資料やミシンの拡大写真、系の通し方や縫い方が分かる映像資料を用意する。	◇ミシンを安全に取扱い、上系や下系を準備して直線縫いをし、系の通し方や、直線縫いの仕方を説明している。 <活動・発言①>
	1	○自分の体の大きさを測って型紙を製作する。	○自分の体の大きさを捉えられるように、体を覆うことができる大きさの不織布を用意する。	◇自分の体の大きさや形に合わせて、動きやすいゆとりを考えた型紙を製作している。 <活動、型紙①>
	家庭	○製作に必要な布や材料を準備する。		
	1	○型紙を用いて布にしるしを付け、裁断する。	○自分の体の大きさに合ったエプロンを製作していけるように、裁断する前にしるしを付けた布を自分の体にあててサイズを確認する観点「たけ」「はば」を提示する。	◇型紙に合わせて、できあがり線や縫いしろのしるしを付け、しるしにそって裁断をしている。 <活動、布①>
	3	○周りを三つ折りにして、ミシンで縫う。 ・わきを縫う。 ・襟と裾を縫う。 ・ひも通しを縫う。	○縫い方の手順を確かめながら製作を進められるように、エプロンの見本や製作段階が分かる資料を用意する。	◇三つ折りにした縫いしろを、ミシンを正しく操作し、直線縫いしている。 <活動、布①>
2	○ポケットを縫い、ひもを通す。 ・ポケットの大きさを決める。 ・ポケットを縫い、ひもを通して仕上げる。	○使いやすいポケットの大きさを考えられるように、複数の大きさの見本や、大きさの決め方についての参考資料を用意する。	◇使いやすいポケットの大きさや位置を記述したり型紙を用いて試したりしている。 <学習プリント・活動②>	
まとめ・広げる	家庭	○製作したエプロンを家庭で活用したり、布を用いたエプロン以外の物を製作したりする。		
	1	○家庭でエプロンを活用した感想や、布を用いたエプロン以外の物を製作したことについて話し合う。	○製作した物を活用できたことの喜びを味わったり、布を用いた生活に役立つ物を製作する意欲をさらに高めたりできるように、話し合う際の観点として、「家庭で取り組んだことのよさ」を提示する。	◇家庭で取り組んだことのよさを基に、エプロンの家庭や学校での活用方法や、布を用いたエプロン以外の物を製作したことの感想を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>

題材	ゆでておいしく！			11月(7時間)
目標	野菜をゆでておいしく調理する方法が分かり、日常生活に生かそうとする。			
評価 規準	(①知・技)野菜をゆでる目的や材料に合ったゆで方、切り方が分かり、包丁やコンロを安全に取扱い、野菜を切ったりゆでたりして簡単な調理をすることができる。 (②思・判・表)おいしいゆで野菜サラダの作り方を考え、家族や自分の好みを基にした材料の組合せや味付け、野菜のゆで方などを工夫している。 (③主体的態度)食生活に関心を持ち、野菜をゆでておいしく調理しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※「記録に残す評価」
見 つ め か る む	家庭	○家庭でサラダの写真を撮る。		
	1	○給食のサラダは、どうして毎回ゆで野菜なのかを話し合い、課題をつかむ。 課題：「野菜をゆでて、おいしいサラダを作ろう」	○給食のサラダに使われる野菜はゆでてあることに問題意識をもてるように、各家庭のサラダについての調査結果と、給食のサラダの写真を提示する。	◇ゆでた野菜のサラダに関心を持ち、野菜をゆでる理由やそれを確かめる計画を考えて、記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>
追 究 す る	1	○キャベツをゆでて生のものと比較し、給食でゆで野菜が出る理由について、実験をして確かめる。	○ゆでたものと生のものを観察したり、試食したりして比べることができるように、ゆでる分量と同量の生のキャベツを用意する。	◇ゆで野菜と生野菜を比較し、野菜をゆでることによって食感や味、かさなどが変わることを、記述したり発言したりしている。<発言・学習プリント①>
	1	○野菜のゆで方を調べ、ゆで野菜サラダの調理計画を立てる。	○材料の組合せや味付けを選べるように、サラダに使える材料のゆで方が分かる資料を提示する。	◇これまでの学習で見つけた野菜のゆで方のポイントを基に、安全面や衛生面に留意して、調理計画を立てている。 <学習プリント②>
	2	○ゆで野菜サラダを作る。	○安全で衛生的な包丁やコンロの取扱い方や野菜のゆで方などを身に付けることができるように、調理の際に見合ったり、教え合ったりするペアを編成する。	◇計画に沿って、安全面や衛生面に留意し、手順よくゆで野菜サラダを調理している。<実習①>
ま と め る ・ 広 げ る	1	○実習の結果を基に、家庭での「ゆで野菜サラダ」の調理計画を立てる。	○身に付けた知識や技能を生かして、家族や自分の好みに合った材料の組合せや味付けを考えた家庭での調理計画を立てられるように、サラダに使う野菜の切り方がわかる資料を提示する。	◇家族や自分の好みを基に、材料の組合せや味付けを工夫したり、ゆで方のポイントを明らかにしたりして、家庭での調理計画を立てている。 <学習プリント②>
	家庭	○調理計画を基に、家庭で「ゆで野菜サラダ」作りを行う。		
	1	○家庭での実践を報告し合う。	○目的や材料に合ったゆで方が、できるようになった達成感を得て、成長していることを自覚できるように、家族からの感想を記述できる学習プリントを用意する。	◇家族のために自分にできたゆで野菜の調理について、記述している。<学習プリント①②③>

題材	ぴかぴかビフォーアフター -目指せ！お掃除の匠-			12・1月(6時間)
目標	汚れの種類や汚れ方に応じた手軽で手際のよい清掃の仕方が分かり、日常生活に生かそうとする。			
評価規準	(①知・技)汚れの種類や汚れ方に応じた手軽で手際のよい清掃の仕方が分かり、汚れの種類や汚れ方に応じた手際のよい清掃をすることができる。 (②思・判・表)汚れの種類や汚れ方に応じた手軽で手際のよい清掃の仕方について考えたり、工夫したりしている。 (③主体的態度)気持ちよく生活するための住まい方に関心をもつとともに、住まいを清潔にしたり、清潔さを保ったりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※「記録に残す評価」
見・つ・つめ・か・る・む	1	○家庭や校内の汚れと清掃の仕方についての疑問点や調べたいことを考え、課題をつかむ。 課題：「気持ちのよい清潔な住まいにするには、どのように清掃するとよいのだろうか」	○家庭や校内が清潔になっている状態や、そのために必要な清掃の仕方に着目できるように、清掃前後の状態を比較できる資料を提示する。	◇清掃の仕方について、疑問点や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>
	家庭 1	○家庭内の汚れやすいところや、汚れが気になる場所、また、汚れの種類や汚れ方、清掃の仕方を調査する。 ○清掃する場所を選び、清掃計画を立てる。	○家庭で調査したことを基に、学校の調理室内から清掃する場所を選び、清掃計画を立てられるように、汚れの種類とその汚れがある場所の関係が分かる表を提示する。	◇学校の調理室内から清掃する場所を選び、清掃計画を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
追・究・す・る	1	○調理室の清掃をする。	○自分なりに汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考えられるように、清掃の仕方を試す時間を確保する。	◇汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を自分なりに試したり、発言したりしている。 <清掃の様子・清掃した場所・発言②>
	1	○調理室を清掃した結果を話し合う。	○汚れの種類や汚れ方に応じた手軽で手際のよい清掃の仕方に気付けるように、試した清掃の仕方が想起できる写真を用意する。	◇手軽で手際よく清潔にできる清掃の仕方を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
	1	○校内の様々な場所を清掃する。	○様々な汚れの種類や汚れ方に応じた手軽で手際のよい清掃の仕方を身に付けられるように、学級全体で明らかにした清掃の仕方を整理した表をもとに清掃する時間を確保する。	◇汚れの種類や汚れ方に応じた手軽で手際のよい清掃の仕方によって様々な場所を清潔にしている。 <清掃の様子・清掃した場所①>
ま・と・広・め・げ・る	家庭 1	○家庭で「ぴかぴか大作戦」を行う。 ○家庭で「ぴかぴか大作戦」を行った結果を基に、清潔さを保つための方法を話し合う。	○住まいを清潔にしたり、清潔さを保つ意欲をさらに高めたりできるように、話し合う際の観点として、「家庭で取り組んだことのよさ」を提示する。	◇家庭で取り組んだことのよさを基に、住まいを清潔にしようとする意欲や、清潔さを保つための方法を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>

題材	いためておいしく！			1月・2月(8時間)
目標	野菜をおいしく調理するいため方が分かり、日常生活に生かそうとする。			
評価規準	(①知・技)材料や目的に応じた切り方やいため方が分かり、包丁やコンロを安全に使い、材料や目的に応じた切り方やいため方をすることができる。 (②思・判・表)野菜をおいしくいためるための火加減や順序を考えたり、家族の好みを基にした材料の組合せや味付けを工夫したりしている。 (③主体的態度)いため方に関心をもち、野菜をおいしく調理しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※「記録に残す評価」
見つめる・つかむ	1	○野菜いため作りについての疑問点や調べたいことを考え課題をつかむ。 課題：「均等に火の通った歯ごたえのよい野菜いためを作るには、どのようにいためるとよいのだろう」	○均等に火の通った歯ごたえのよい状態や、そのために必要な野菜のいため方に着目できるように、複数の野菜いためを試食する機会を設定する。	◇均等に火の通った歯ごたえのよい野菜いため作りについて、疑問点や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>
	家庭 1	○家庭で野菜いためを作る際の材料や工夫について、調査する。 ○包丁を使う練習を継続して行う。 ○試しの調理計画を立てる。	○野菜をいためる火加減や時間について確かめる方法を考えられるように、子どもたちが家庭で調査した内容を整理した表を提示する。	◇野菜をいためる火加減や時間について確かめる方法を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
追究する	1	○試しの調理Ⅰをする。	○均等に火が通った野菜いためを作るための適切な火加減を考えられるように、自分たちの作った野菜いためと比較できる見本の野菜いためを用意する。	◇均等に火が通るように、いためるための火加減を自分なりに考えたり、試したりしている。 <学習プリント・発言②>
	1	○試しの調理Ⅱをする。	○歯ごたえのよい野菜いためを作るための時間や順序を理解できるように、時間や順序のよいため方を整理する表を用意する。	◇野菜は固いものから火にかけ、強火で短時間でいためるとよいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
	2	○試しの調理で見つけたいため方を基に、野菜いため作りをする。	○包丁やコンロの扱い方、野菜のいため方など、安全で衛生的な調理技能を身に付けることができるように、見合ったり、教え合ったりするペアを編制する。	◇包丁やコンロを安全に使い、手順よく野菜いため作りをしている。 <実習①>
まとめる・広げる	1	○家庭での「家族のためのオリジナル野菜いため作り」の調理計画を立てる。	○家族の好みに合った野菜いための調理方法を考えられるように、材料の組合せの例や野菜の切り方をまとめた資料を提示する。	◇家族の好みを基に、材料の組合せや味付けの工夫や、野菜をおいしくいためるためのポイントを明らかにした調理方法を記述している。 <学習プリント②>
	家庭 1	○家庭での「家族のためのオリジナル野菜いため作り」をする。 ○家庭での「家族のためのオリジナル野菜いため作り」の実践や感想を話し合う。	○家族のために野菜いためを作れたことの喜びを味わったり、いためる調理をする意欲をさらに高めたりできるように、話し合う際の観点として「家庭で取り組んだことのよさ」を提示する。	◇家庭で取り組んだことのよさを基に、日常生活の中でいためる調理をしようとする意欲を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>

単元	1年生に贈るはちまきを作ろう		2・3月(5時間)
目標	製作に必要な用具を安全に取扱い、ミシンを用いた直線縫いで、来年度入学する1年生に贈るはちまきを製作する。		
評価規準	(①知・技)正しいミシンの操作方法や、布の向きを変える角の縫い方が分かり、縫いしろのしるしを正しく付けたり、ミシンを正しく操作したりして、幅が一定のはちまきを製作することができる。 (②思・判・表)ミシンを用いたはちまきの製作計画を考えている。 (③主体的態度)布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、来年度入学する1年生のためにはちまきを製作しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
見つめる・つかむ	1	○自分が1年生の時にはちまきをもらった思い出について話し合い、課題をつかむ。 課題：「来年度の1年生が喜んで使ってくれるようなはちまきを作ろう」	○1年生の時にしてもらったことを、今度は自分たちがする側になったという意識をもてるように、自分たちが1年生の時の迎える会の写真を提示する。
	1	○はちまきの製作計画を立てる。	○はちまきを製作するために必要な準備や製作の手順について考えられるように、はちまきを製作する大まかな活動の流れを提示する。
追究する	1	○しるしを付けて、縫いしろをミシンで縫う。	○ミシンの安全な取扱い方や、角の縫い方を理解できるように、ミシンの取扱い方に関わる資料や角での布の向きの変え方が分かる映像資料を用意する。
	1	○布を裏返し、返し口をミシンで縫って仕上げる。	○返し口の縫い方を確かめながら仕上げを進められるように、はちまきの見本や縫い方の段階が分かる資料を用意する。
ま・と広めげる	1	○互いに作ったはちまきを見合って、製作の感想を話し合う。	○布を用いた生活に役立つ物を製作する意欲をさらに高められるように、話し合う際の観点として、「製作した物を人に贈るよさ」を提示する。
			◇はちまき製作に込める思いについて、記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>
			◇はちまきを製作するために必要な準備や製作の手順について考え、計画を記述している。 <学習プリント②>
			◇ミシンを正しく操作し、角では針を刺して布の向きを変えて縫い、角の縫い方を説明している。 <活動・発言①>
			◇裏返したはちまきにアイロンをかけ、返し口をミシン縫いで閉じている。 <活動・布①>
			○製作した物を人に贈るよさを基に、1年生の時にはちまきをもらった感想や、はちまき製作に込めた思いを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①②③>